

タネの発芽に光が必要でしょうか？

植物は光があることによって発芽が促進される種類があります。
これを好光性種子といいます。

＜好光性種子＞

シソ、セロリ、ニンジン、ミツバ、キクナ、インゲン、
レタス、ゴボウ、ツケナ

○好光性種子は非常に細かい種子が多く、播種する時は覆土をせず、
まいた後、上から薄く土をまいたり、敷きわらをします。
そうすると適当に光が届き、発芽がそろいます。

反対に光に当たると発芽しにくくなるものもあります。
これを嫌光性種子といいます。

＜嫌光性種子＞

ダイコン、タマネギ、ネギ、ニラ、カボチャ、スイカ、
トマト、ナス

○嫌光性種子は、まき穴やまき溝をつくり、タネをまいてからしっかり
覆土します。

タネが発芽するとき光があった方が発芽が促進されるタネを好光性種子と
呼び、反対に光に当たると発芽が抑制されるタネを嫌光性種子と呼びますが、
この中間で光の影響を全く受けない中間性のタネも存在します。

コンパニオンプランツとは

野菜と花、野菜同士、それぞれ生育を助け合うもの同士を「コンパニオンプランツ（共栄植物）」といいます。生育の補助を行うことが出来るとともに、病虫害の害を減らすことにも役立ちます。

＜材料＞

トマト（ナス科）、ねぎ（ユリ科ネギ属）、パセリ（セリ科）、赤じそ（シソ科）、サニーレタス（キク科）、みずな（アブラナ科）、ラディッシュ（アブラナ科）

植 物	相性の良い植物	相性の良くない植物
バジル	胡椒, トマト, マリーゴールド	
豆類(蔓なし)	キャベツ、ニンジン、セロリ、トウモロコシ、 キュウリ、ナス、レタス、エンドウ、 ラディッシュ、イチゴ、マリーゴールド	タマネギ
豆類(蔓あり)	ニンジン、トウモロコシ、キュウリ、ナス、 レタス、エンドウ、ラディッシュ、	ビート、タマネギ
ビート	豆類(蔓なし)、キャベツ、タマネギ、セージ	
アブラナ科 植物	豆類(蔓なし)、ビート、セロリ、タマネギ、 トマト、ハーブ類(シソ)、マリーゴールド、 ナスタチウム	イチゴ
ニンジン	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、レタス、セージ、 タマネギ、エンドウ、ラディッシュ、トマト、	ディル
セロリ	豆類(蔓なし)、キャベツ、タマネギ、 ハウレンソウ、タマネギ、トマト	
トウモロコシ	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、キュウリ、 エンドウ、カボチャ、メロン	トマト

植物	相性の良い植物	相性の良くない植物
キュウリ	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、トウモロコシ、レタス、タマネギ、エンドウ、ラディツシュ、ナスタチウム、マリーゴールド、	
ナス	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、カボチャ	
レタス	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、ニンジン、キュウリ、タマネギ、ラディツシュ、イチゴ	
メロン	トウモロコシ、ナスタチウム、ラディツシュ	
タマネギ	ビート、キャベツ、ニンジン、セロリ、キュウリ、レタス、コショウ、カボチャ、イチゴ、トマト	豆類 (蔓あり、蔓なし、エンドウ)
パセリ	トマト	
エンドウ	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、ニンジン、カブ、トウモロコシ、キュウリ、ラディツシュ、	タマネギ
コショウ	タマネギ	
ラディツシュ	豆類(蔓なし)、豆類(蔓あり)、ニンジン、キュウリ、レタス、メロン、エンドウ、カボチャ	ヒソップ
ハウレンソウ	セロリ、ナス、カリフラワー	
カボチャ	トウモロコシ、タマネギ、ラディツシュ	
イチゴ	豆類(蔓なし)、レタス、タマネギ、カボチャ	キャベツ
トマト	キャベツ、ニンジン、セロリ、タマネギ、ミント	トウモロコシ、フェンネル

(メモ)

§ 9 月の相談内容から重要と思われる質問についてあらためて説明します

1. 夏作トマトの根を掘りあげたらネコブセンチュウが寄生していた。

根にこぶをつくる線虫は日本では数種類が報告されていますが、関東以西ではサツマイモネコブセンチュウの被害がもっとも大きく今回の相談もおそらくこの種と思われます。その名のとおり、サツマイモを含めたイモ類やナス科(ナス、トマト、ピーマンなど)、ウリ科(キュウリ、ニガウリなど)、アブラナ科(ダイコン、カブ、ハクサイ、コマツナ、ミズナなど)、ニンジン、マメ類など家庭菜園でよく栽培される野菜のほとんどが大好物です。

被害を受けにくいのはタマネギ、セロリ、イチゴ、落花生、ソラマメなど一部に限られます。雑草に寄生することも多いので厄介です。

いったん侵入すると完全な防除が困難というか不可能に近い害虫の一つです。地温が 15℃以上になると活動が活発になるので春夏作で被害を受けやすく、秋作でも早い作では被害が発生します。センチュウの密度が高いと日中に葉が萎れ生育が悪くなりますが、密度が高くない場合は収穫後の根を引き抜いて初めて感染に気づく場合も多い様です。

前年に全く発生していなかったとすると、苗による持ち込み、汚染畑で使用した農機具や作業靴に付着しての持ち込みの可能性が大きいと考えられます。

【対 策】

① 被害を受けた根が見つかった場合、被害が見られなかった株も含め根は外部に持ち出して廃棄する。根に付いている土は強くふるい落とさない方がよい。雑草の根も丁寧に取り除いた方が好ましい。

② 完熟堆肥を施用する。

ネコブセンチュウを捕食するミミズやネコブセンチュウに対抗してしかも植物に被害を及ぼさない善玉のセンチュウ、カビ、細菌など土中の微生物の種類を増やしネコブセンチュウの増殖を抑える。完熟堆肥を施して土中の微生物の活動を高め残根を速やかに腐熟させるのは寄生部位を無くす点でも好ましい。

③ 対抗植物を栽培する。

ネコブセンチュウの増殖を抑える植物はいくつかありますが、種子が入手しやすいのはマリーゴールドです。マリーゴールドにはアフリカン、フレンチ、メキシカンの 3 タイプがあり、いずれも効果があります。特にアフリカンマリーゴールドは生育が旺盛で暑さにも強く適しています。5 月上中旬に植え付け、8 月上旬に花ごと刈り取り 10cm くらいの長さに切って株全体をすき込みむと秋作に間に合わせる事ができます。マリーゴールドを全面に栽培できればそれに越した事はありませんが空いている場所や株間で栽培するのも一法です。1 か月ほどかけて土中で完全

に腐熟させると秋作以降で効果が期待できます。すき込むと⑦の石灰窒素や⑧の薬剤防除では効果が出にくい表面から 20cm よりも深い部分でも効果が見られます。

試験例により異なりますが効果の持続期間は 1～2 年です。

④ 輪作の徹底。

栽培面積の限られている中での輪作はなかなか難しいこともあるでしょうが、少なくとも同じ作物を毎年同じ場所で栽培することは避けます。

⑤ 太陽熱を利用した土壌消毒

梅雨明け後、土を掘り返して畝立て後に透明マルチで畝を完全に覆いマルチの周囲に土をかぶせ熱が逃げないようにして、半月程度そのままにして太陽熱を利用して土を消毒します。

センチュウ以外の害虫や雑草の種子も死んでしまいますので、畑に余裕があればぜひ取り入れてほしい対策です。

⑥ 抵抗性品種や抵抗性台木に接ぎ木された苗を栽培する。

⑦ 石灰窒素の利用

石灰窒素は土壌消毒剤としての作用と窒素肥料としての作用の 2 つの働きをあわせ持っています。土中での分解時にシアナミドというガスを発生し、これが消毒剤としての効果を発揮します。50～100g/m²を散布して丁寧にすき込みます。

すき込み後は作物を植え付けられるようになるまで最短でも半月程度を要します。肥料として窒素を含むので施用後の窒素施肥は控え目とします。

⑧ 薬剤による防除

いくつかの薬剤がありますが、家庭菜園で利用できる農薬は限られてきます。ネマトリンエース粒剤は播種・定植直前に処理するのが最も効果が高い農薬で使いやすいのですが、栽培できる作物が限られます。

薬剤は地表面から 20cm 程度までのセンチュウ密度を一時的に下げますが、栽培期間が長い作物では収穫時にはセンチュウの密度が回復していることもある様です。防除前に雑草も含め土中の根を丁寧に取り除いておくことが防除効果を高めることにつながります。

2. ソラマメやエンドウのハモグリバエ(エカキムシ)対策

ハモグリバエはいろいろな種類がありますが春先のソラマメやエンドウの柔らかい葉が大好物です。

- ① 近くに冬の間の生息場所があるはずですので、それを取り除いたり防除します(例えば、周辺の雑草、秋から栽培しているはくさいやブロッコリなどのアブラナ科野菜の葉)。
- ② 例年被害のひどい場所では 1mm 目以下の防虫ネットを被せると被害を抑えることができます。ただし、ネットの中にハモグリバエが入るとハモグリバエを飼うみたいなことになるので入らせないように注意が必要です。
- ③ ホームセンターで容易に入手できる農薬としてはマラソン乳剤があります。希釈倍率、散布量、散布回数や散布期限は製品のラベルをよく読んでください。

3. ハヤトウリの雌花がつかない。

ハヤトウリは短日性植物といって明るい時間が短くなると開花する習性(本当は連続した暗い時間が必要)があります。通例、開花は9月中下旬頃からです。街灯や人家からの明かりなどで暗い時間が短いと開花しにくくなるので植え付け場所は注意が必要です。

4. 葉ネギの葉が途中で折れる。

軟弱に育っているためと思われます。

その原因として、①日照不足、②窒素質肥料の過剰施用、③水のやり過ぎ(土壌水分の多すぎ)、などが考えられます。

5. しょうがの新葉が黄色い。

石灰質資材のやり過ぎで土の pH が高くなり、土中の鉄が吸収されにくくなったことによる鉄欠乏症と思われます。野菜の種類により好む土壌 pH は異なるので石灰質資材を施用する時は注意が必要です。多くの野菜は pH が 5.5~6.5 の間なら好適 pH の範囲といえます。

低 pH を好む野菜では石灰質資材は施用しなくても問題ない場合が多いです。

○低 pH(5~6)を好む野菜: : しょうが、など。

○中性に近い pH を好む野菜: : ほうれんそう、えんどう、たまねぎ、など。

エンドウ[豌豆](マメ科)<播種（露地）>

特 徴	莢(さや)を食べるサヤエンドウ、実だけを食べる実エンドウ、実が大きくなってもさやが柔らかく、さやごと食べられるスナックエンドウがある。 耐寒性は強く幼苗の期間は0℃以下でも耐えることができる。 尼崎なら12月に蒔いても育つ。 ツルがからみだし、上に伸び始める頃になると寒さに弱くなるので早蒔きは避ける。 非常に連作を嫌う作物なので、<u>一度栽培したところでは3～4年栽培を見合わせた方がいい</u>。
播 種 の 時 期	11月～12月上旬
土 の 準 備	2週間前 耕起 : 30cm 苦土石灰 : 100g/m² 最適 pH : 6.0－7.0 1週間前 乾燥牛糞堆肥 : 3kg/m² 数日前 化成肥料(8-8-8) : 100g/m² 畝の高さ : 20cm
発 芽 難 度	普通
播種時の注意	うねの中央に株間30cmで1カ所に3粒ずつまき、2cmほど覆土する。 種が流れないように注意してたっぷり水をやる。 鳥に食べられない注意する。
播種後の管理	風通し : 密植させない。風通しを良くする。 間引き : 発芽して本葉が3枚になったらよい株を2本残し、1本を間引きする。 冬の間はあまり大きくならないが、耐寒性が強いので問題ない。 株元に敷きわらをして、防寒してやるとよい。 追 肥 : 春(3月上旬)になると生育が盛んになってくるので、リン酸やカリの多い肥料(草木灰、PやKの成分の多い化成肥料)を株元にひと握り施し土寄せする。 支 柱 : 草丈が20cmほどになり、つるが伸び始めた頃、支柱やネットを立てて誘引する。
病 気	うどんこ病 : ベンレート水和剤、カリグリーン、重曹
害 虫	ネキリムシ : ネキリバイト アブラムシ : アーリーセーフ

そ の 他	収穫時期：サヤエンドウはさが平らで、実の小さい時。 ・実エンドウは中の実が充実し、さが膨れて表面の光沢が無くなり、ざらつくようになった頃が収穫適期。
--------------	---

- ・施肥の目安（堆肥：スコップ1杯：2kg、苦土石灰1握り：約40g、化成肥料1握り：約30g、1つまみ：約2g）



春になって成育が活発になったら、リンサンやカリ分の多い草木灰などの肥料をひと握り株元にばらまき、土寄せします。



支柱立て 春になると急速に伸びだすので、早めに支柱を立てて、誘引してやります。

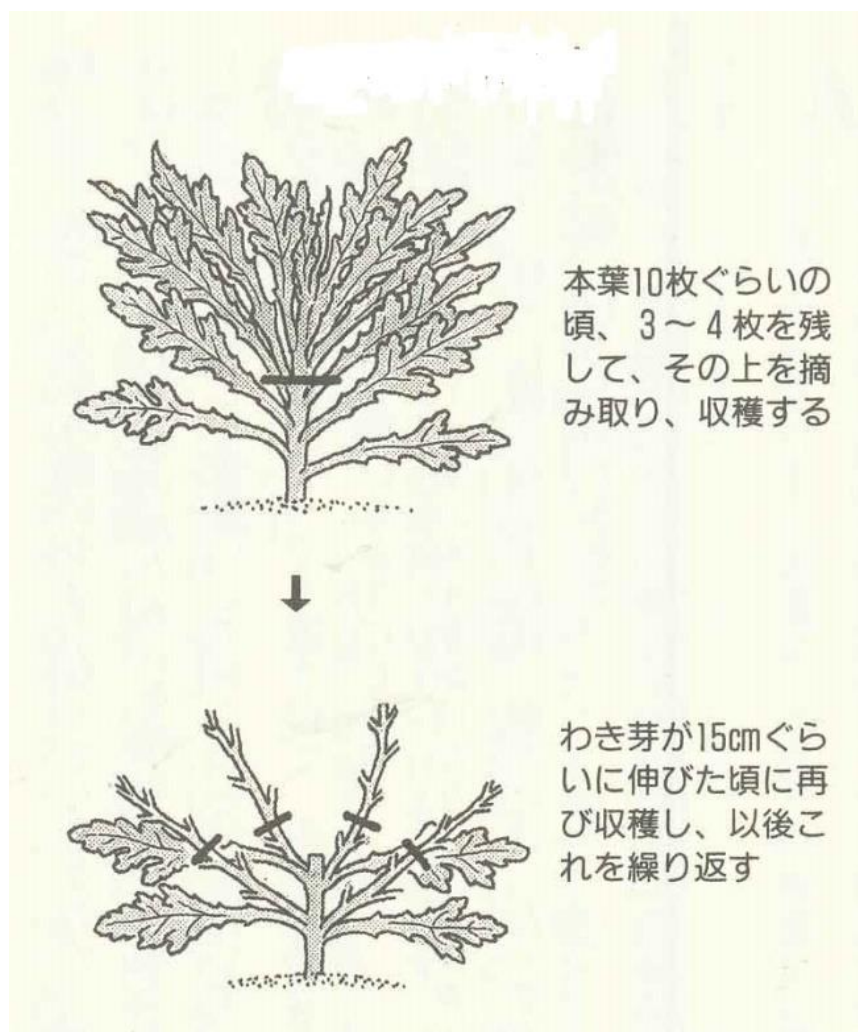
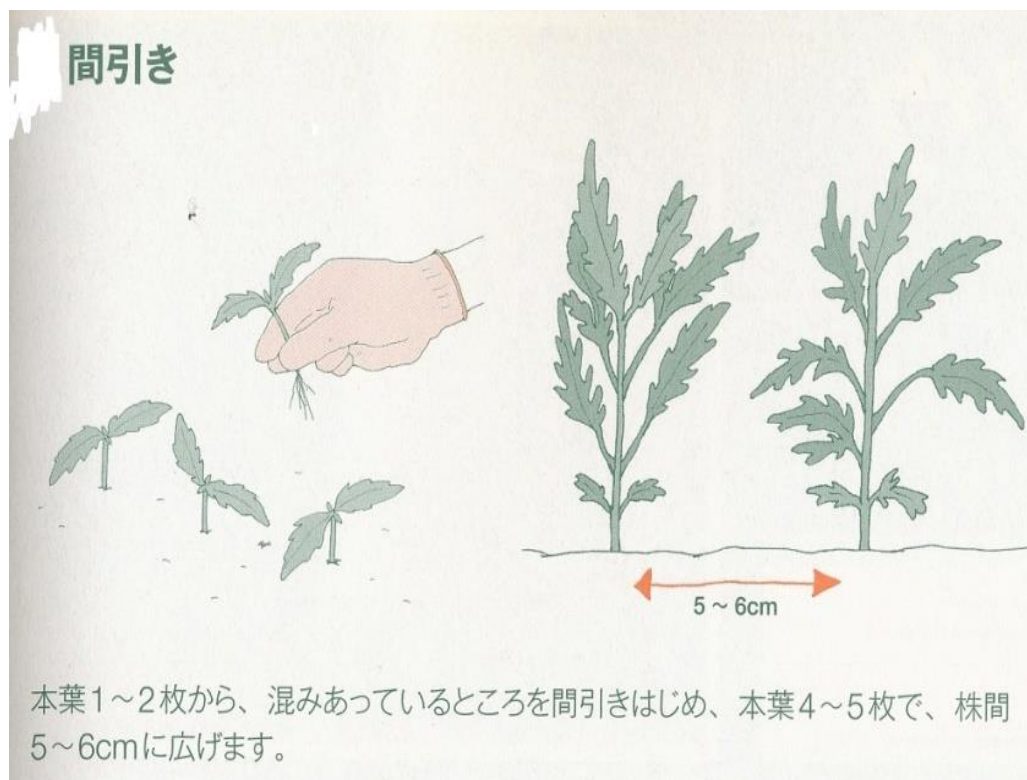


サヤエンドウは、サヤが平らで実が小さいうちに利用します。実エンドウは、中の実がよく充実し、サヤがふくれて表面の光沢がなくなり、ざらつくようになったら収穫します。

キクナ(菊菜)[シュンギク(春菊)](キク科)

特 徴	ほとんど1年中栽培できます。 関西では普通、キクナと呼ばれています。 キクナは栽培しやすい葉もの野菜です。 日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。 アブラナ科の野菜と混植すると、コンパニオンプランツになります。
播 種 の 時 期	ほぼ1年中栽培できる
土 の 準 備	1ヶ月前 耕起 : 30cm 苦土石灰 : 100g/m² 最適 pH : 5.5-6.5 2週間前 発酵牛糞堆肥 : 3kg/m² 数日前 化成肥料(8-8-8) : 100g/m² 畝の高さ : 20cm
発 芽 難 度	易
播種前の種の 処 理 方 法	キクナの種子は表面に発芽抑制物質があるので、種をまく前日一晩水に浸ける。 そして、その水を洗い流し、生乾きの種子を利用する。
播 種	① 板切れで 10cm 間隔で深さ約 5 mm のまき溝をつける。 ② まき溝に種子が重ならないようにすじまきし、薄く覆土する。 ③ 種が流れないように注意して、たっぷり水やりする。
定植後の管理	1週間ほどで発芽する。
間 引 き	本葉 2 枚ほどで間引きを始め、本葉が 5 ～ 6 枚の頃に株間 5 ～ 6 cm になるようにする。 葉が、重なり合ってきたら、さらに間引きをして、最終的には株間が 10 ～ 15cm になるようにする。 間引いたキクナはおひたしや、汁の具に使える。 高さが 15 ～ 20cm ほどになったら、順次抜き取って収穫する。 * 収穫の時、本葉を 4 ～ 5 枚残して摘み取ると、脇芽が出てくる。そうすると数回収穫することができる。
病 気	白さび病 : 風通しをよくする。カリグリーン

施肥の目安 (堆肥 : スコップ 1 杯 : 2kg、苦土石灰 1 握り : 約 40g、化成肥料 1 握り : 約 30g、1 つまみ : 約 2g)



ミズナ(水菜)(アブラナ科)

特 徴	水だけで栽培できるのでこの名前がつけられた。 冬の低温に遭うと糖分が葉に集積して葉色が淡くなる。 また、低温条件でじっくり育てると、やわらかくて甘くなる。 葉色が濃いと硝酸塩濃度が高く、えぐみがあり、糖度も低くなるので甘くない。元肥をやらずに栽培する。 ハクサイやキャベツと違い、穫り遅れの心配がなく長期間利用できる。
播 種 の 時 期	3 月～10 月
土 の 準 備	1 ヶ月前 耕起 : 20cm 苦土石灰 : 100g/m ² 最適 pH : 5.5-6.5 2 週間前 発酵牛糞堆肥 : 3 kg/m ² 数日前 化成肥料(8-8-8) : (元肥はやらない) 畝の高さ : 20cm
発 芽 難 度	易
播 種	① 株間 30cm で 4～5 粒ずつ点まきし 5 mm ほど覆土する。 ②種が流れないように注意して、たっぷり水やりする。
播種後の管理	①発芽したら本葉 1～2 枚の頃に 2 本にする。 ②本葉 3～4 枚になったら 1 本にする。 ③種まきから 1 ヶ月後をめやすに株間に油粕か、ぼかし肥料を 1 m ² たり 1 握り施し、土となじませる。 ④さらに 3 週間ほどしたら同じように油粕かぼかし肥料を 1 握り施し、土となじませる。
害 虫	アオムシ、コナガ：寒くなるまで寒冷紗を張る
収 穫 適 期	下葉の色が薄くなったら収穫適期。 大株の場合は 1 kg にもなる。
そ の 他	*密植栽培にして小株穫りする方法もある。 スジまきし、数回間引きして株間が 5 cm ほどにする。 草丈が 30cm ほどになれば収穫適期。株間が混み合いシャキシャキした食感になりサラダとして利用できる。 この場合は無肥料

施肥の目安（堆肥：スコップ 1 杯：2kg、苦土石灰 1 握り：約 40g、
化成肥料 1 握り：約 30g、1 つまみ：約 2g）

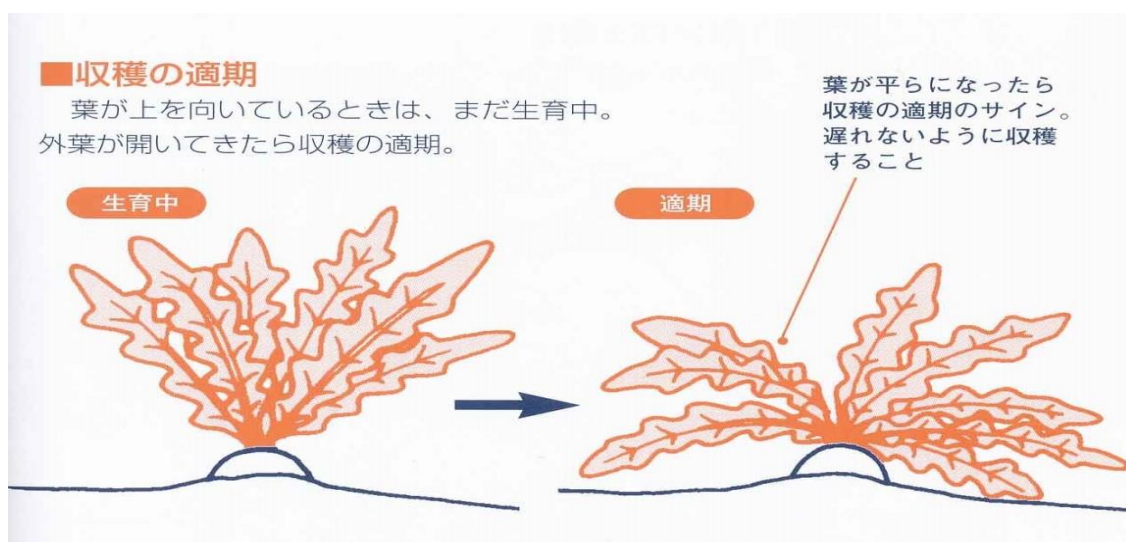


大株に育ったら、株元で根から切りはなして収穫します。ハクサイやキャベツなど
と違い、とり遅れの心配がないので、長期間利用できるのが特徴です。

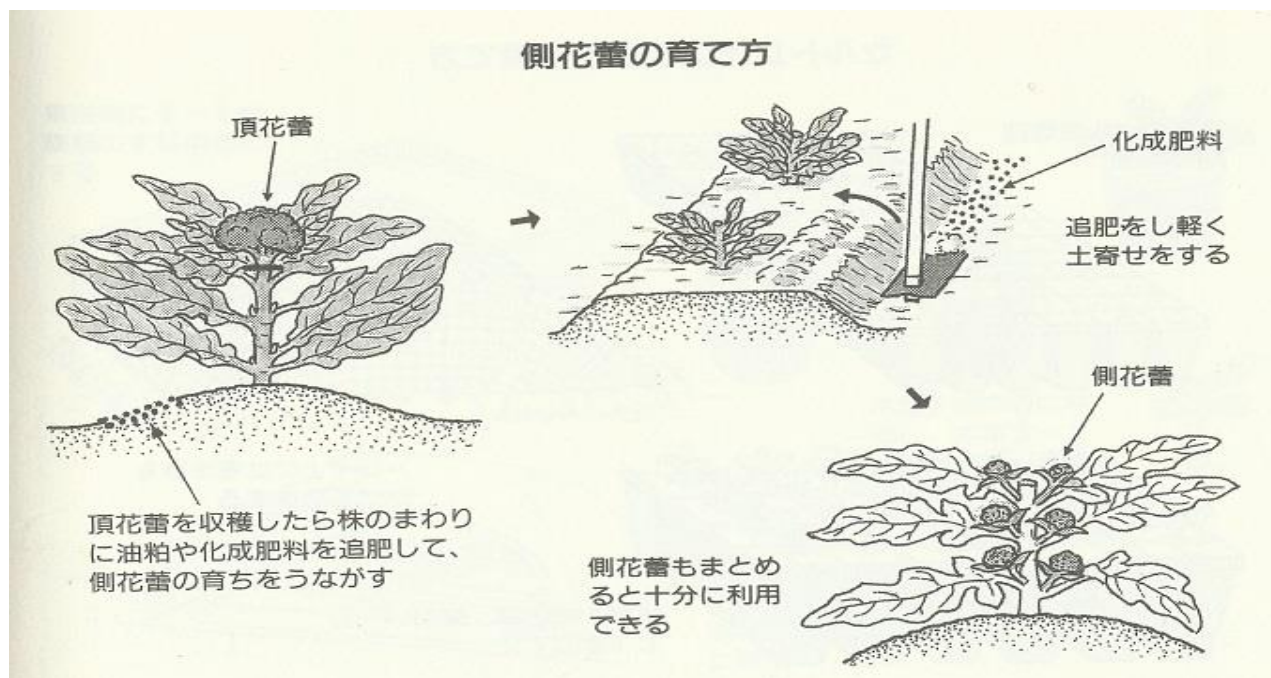
10 月から 11 月にかけての管理作業

野 菜 名	栽 培 管 理 作 業
ダイコン	間引いて 1 本立ちにした半月後に、株の片側に化成肥料を 2～3 つまみずつ施す。 その半月後に、反対側に化成肥料を追肥として 2～3 つまみずつ施す。 ＊ 1 本立ちした後は、追肥の都度必ず土寄せをする。 これをしないと肩の部分が緑化する。
ハクサイ	定植後 15 日に株まわりに化成肥料ひと握りまき土寄せする。 定植後 30 日の頃に畝の肩にひと握りまいて土寄せする。 結球を始める頃に化成肥料をひと握り畝の方にまく。 (このときは土寄せしない) 結球してから外葉をひも等で巻かない。 これは寒さ除けなので尼崎では巻く必要はない。
ブリッコリー	定植後、月に 1 回株まわりに追肥(化成肥料 50g/m²)、倒れないように土寄せする。 株が大きくなってくると「畝の谷」片方ずつに施肥し、土をかぶせる。 頂花蕾(からい)を収穫したあと、株あたりひと握りの追肥をおこない側花蕾の発育を促す。 側花蕾は次々と長期間採れるので肥切れしないようにする。

ダイコン



ブロッコリー



- ・ 施肥の目安（堆肥：スコップ1杯：2kg、苦土石灰1握り：約40g、化成肥料1握り：約30g、1つまみ：約2g）

タマネギ（ユリ科）＜定植＞

特 徴	原産地は中央アジア。日本への伝来は明治初期。 ◎ 播種から収穫までの日数の短い方から、<u>極早生</u>、<u>早生</u>、<u>中生</u>、<u>晩生</u>の品種があります。 関西で一般的な秋まき春どり栽培では、極早生から中生までの品種が適しています。 ◎ 極早生や早生の品種は貯蔵性が劣るので、吊しタマネギとして貯蔵するのは中生か中晩生の品種を栽培します。 ◎ 結球開始には気温と1日の夜の時間の長さが関係し、晩生になるほど結球開始時の気温が高く、また夜の時間は短く(昼の長さは長く)なります。 結球を始める時の日長(1日の明るい時間の長さ)は、早生品種で12時間(2月下旬～3月上旬)、中生品種で13時間(3月中旬～下旬)といわれています。 結球開始は低温ほど長い日長を必要とし、高温になるほど短い日長でも結球を始めます。 ◎ ある程度の大きさに達した幼植物が低温に感応して花芽を分化します。大きすぎる(太すぎる)苗は低温に感応しやすく早期抽台の可能性が大きくなります。 ◎ タマネギの栽培では栽培時期に適した品種を選び、適期に苗を植えつけることが大切です。
定植時期 収穫時期	11月上旬(極早生)～12月(中晩生) 4月下旬(極早生)～6月中旬(中晩生)
土の準備	1ヶ月前 耕起：20cm 苦土石灰：100g/m² 最適 pH：6-6.5 2週間前 堆肥：2-3kg/m² 数日前 化成肥料(8-8-8)：100g/m² リン酸肥料(あれば)：50g/m² 畝の高さ：15-20cm

定 植 時	◎株間隔：株間、条間ともに 12-15cm くらい。 ◎鉛筆よりも太い苗は早期抽台や分球しやすく、細すぎる苗は 冬季の寒さで枯死することがあるので気をつける。 ◎定植時には十分に水をやる。 黒マルチを張ると早春の地温が確保され、球の肥大が促進される。 ◎深植えをしないこと。植穴は、深さ 2-3cm。 (苗の白い部分が見るように)
定植後の 管 理	水 遣 り：土が乾いたら与える。 追 肥：1 回目は植え付け半月後頃、2 回目は 1 月中下旬、 3 回目は 2 月中下旬(極早生)～3 月上旬(中晩生)に 50g/m²程度を与える。 3 回目の追肥が遅れたり多すぎると収穫した球の 貯蔵性が低下したり苦味が出ることがあるので 適期・適量追肥を心がける。 3 回目の追肥後に株元へ土寄せすると球に光が当たる ことによる緑化を軽減できます。 そ の 他：<u>80%程度の株が倒伏した時</u>が収穫適期と言われている。 収穫は晴天日に行う。
害 虫	◎秋まき春採りは低温期の栽培になり、大きな被害を及ぼす害虫は少ない。
病 気	・ べと病 葉の途中から黄色くなり、その部分から葉が折れ下がる。 4 月から 5 月上旬に曇雨天が続き空中湿度が高いと多発する。 発病株は見つけ次第、発病部・株を取り除きます。 病原菌は土中で 10 年以上も生存可能と言われ、前年に発生した場合 は連作は避けます。
そ の 他	タマネギを病虫害から守るコンパニオンプランツにはニンジン やソラマメなどがあります。 逆に同じユリ科同士(にんにくなど)は相性がよくないので避けます。

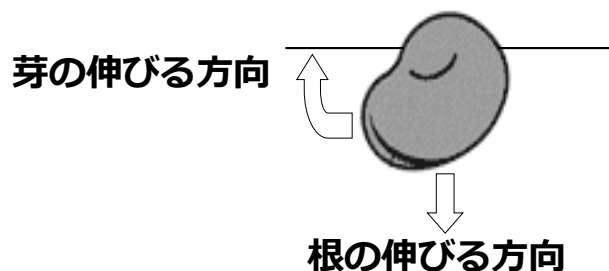
- ・ 施肥の目安 (堆肥：スコップ 1 杯：2kg、苦土石灰 1 握り：約 40g、
化成肥料 1 握り：約 30g、1 つまみ：約 2g)

ソラマメ（マメ科）＜ポット育苗＞

特 徴	原産地は西アジアから北アフリカ。冬季も温暖な気候を好む。ある程度の低温に遭わないと開花しない。
播 種 の 時 期	10 月後半から 11 月中旬 までに播きます。
発 芽 難 度	発芽は容易で特に気をつける事はありません。 種子を土の中に埋めてしまわないように気をつけましょう。
播種前の種の 処 理 方 法	種子の前処理は必要ありません。
育 苗 用 土	一般的な野菜用土で十分です。 自作する時は中性に近い土を好むので 石灰は多い目 に施します。 7.5-9cm ポットに土を入れて種子を播きます。
播種時の注意	オハグ口部を下にして縦に 2/3 くらいが土に埋まる 様に播きます。 播種直後にたっぷりと水をやり、その後は 発芽するまで水やりを控えます 。
播種後の管理	日当たりの良いところに置き、発芽後は鉢土が乾いたら水をやります。 鳥害 に気をつけます。
定 植 の 準 備	完熟堆肥 2kg/m ² 、苦土石灰 150g/m ² 、化成肥料 80g/m ² 程度を施用し、土にすき込んでおきます。 マメ類は根に 根粒細菌 が寄生して空中の窒素を固定し植物体が利用出来るので 窒素肥料の過多は慎みます 。 また、マメ類は酸性土に弱いので土の pH が低い時は石灰を多い目 に施用します。 ※ 連作障害が発生しやすい のでマメ類を栽培した後は避けるようにします。 多湿を嫌う ので土が湿りがちな場合は畝を高くするなどの対策をとります。
定 植	本葉が 2-3 枚の頃 (11 月中旬～下旬)。 植えつけ時には種子から伸びている 直根をなるべく傷めない 様に気をつけます。 株間は 40cm 程度。 密植すると春に風通しが悪くなり病害虫が発生しやすくなります。

定植後の管理	定植後はたっぷりと水をやります。その後も土が乾いたら水をやります。 3 月上旬中旬に化成肥料を 50g /m²程度追肥します。 3 月下旬から 4 月中旬になると地際から分枝した枝が伸びてくるので生育の良い 6-8 本程度を残し、生育が遅れ伸びの悪い茎は地際から取り除きます。 そして株が倒れないように周囲にひもを張ったり、ネットを張ります。
病 気	アブラムシにより媒介されるウイルス病、赤色斑点病などがあります。 発生後の防除は困難です。
害 虫	3 月以降に気温が上がってくるとアブラムシの被害を受けやすくなります。発生が見られたら直ぐに薬剤を散布します。 新芽に寄生しやすいので、茎が 80cm くらいまで伸びたら茎の先端の新芽部を摘み取るのも一法です。

- ・ 施肥の目安（堆肥：スコップ 1 杯：2kg、苦土石灰 1 握り：約 40g、化成肥料 1 握り：約 30g、1 つまみ：約 2g）



10 月から 11 月にかけての管理作業

野 菜 名	栽 培 管 理 作 業
ダイコン	・ 本葉が 2-3 枚の時に 1 か所について 2-3 株に間引きします。同時に速効性化成肥料(8-8-8 など)を 50g/m²程度追肥します。 ・ 本葉が 5-6 枚になれば 1 か所に 1 株とし、速効性化成肥料(8-8-8)を再度 50g/m²程度追肥します。 ・ 子葉までの茎が長く株がぐらぐらする場合、株元に軽く土寄せをしてぐらつかないようにします。 ・ 9 月上旬に播種した場合、生育が順調なら 11 月には収穫できるでしょう。
ハクサイ	・ 定植後 1 週間目頃と 3 週間目頃に速効性化成肥料を 80g/m²程度追肥し、肥料切れにならないように気をつけ下葉(外葉)が大きくなるようにします。8-10 枚めくらいまでの葉を大きく育てることが大きなハクサイを収穫できることにつながります。ハクサイの根は地表近くに多く、追肥時に中耕する場合は細根を切らないように注意し最小限とした方がよいでしょう。 ・ 下葉の肥大が悪い(肥料不足、植え傷み、害虫による食害など)と結球しないことがあります。 ・ 早生品種を 9 月上旬までに植えた場合、10 月後半から収穫できるでしょう。
ブリッコリー	・ 定植後 1 週間目ころと 1 か月後ころに速効性化成肥料を 80g/m²程度追肥し、下葉を大きく茎を太くなるように育てます。 ・ 極早生品種では早いと 11 月頃から収穫できます。

共 通	＜害虫＞ 気温が高い日があり、以下の害虫は特に注意して下さい。 ① シンクイムシ(ハイマダラノメイガ) 幼虫が芽の中心部の柔らかい部分を食べてしまいます。被害がひどいと新しい葉が展開できなくなり、ダイコンでは根が十分に肥大しない、ハクサイやキャベツでは結球しない、などにより収穫は望めません。 防虫ネットをかけたり、登録のある農薬を定期的に散布して被害発生を防ぎます。 ② アオムシ ハクサイ、キャベツなどの若い株が被害を受けると、ひどい場合には結球しくなくなります。防虫ネットをかけたり、定期的な農薬散布で防除に努めます。 ③ アブラムシ モザイクウイルスを媒介するアブラムシの発生にも注意が必要です。特に前年にモザイク病の発生がみられた農園では防虫ネットをかけたり、定期的な農薬散布で防除に努めます。
--------	--

- ・ 施肥の目安（堆肥：スコップ1杯：2kg、苦土石灰1握り：約40g、化成肥料1握り：約30g、1つまみ：約2g）